

289-71



財團
法人

理化學研究所
案内

昭和十五年

同所編

289

71



始





昭和十五年

財團法人
理化學研究所案內

目次

一、目的及事業……………一頁



二、沿革……………二頁

設立の發端
國庫補助法律
設立金
總裁
總所
三菱造船株式會社研究所寄附の件

三、組織……………二頁

資金
會員、役員及職員



研究室
研究室

四、寄附行為、規則及規程……………一六

寄附行為

規則

規程

特許實施許諾内規

研究生規程

技術練習生規程

五、位置、建物及設備……………一六

位置

建物及設備

六、昭和十五年年度研究項目……………四〇

七、昭和十五年年度豫算……………三二

八、前年度決算……………三五

九、特許權……………九

附錄 役員名簿、構内建物配置圖……………九〇

財團法人 理化學研究所案内

一 目的及事業

〔目的〕 理化學研究所は産業の發達を圖る爲、純正科學たる物理學及化學の研究を爲し、又同時に其應用方面の研究をも爲すのである。工業と云はず農業と云はず、理化學に基礎を置かない總ての産業は、到底堅實なる發展を遂ぐる事が出来ない。殊に人口の稠密な、工業原料其他物資の尠い我國に於ては、學問の力によつて産業の發達を圖り、國運の發展を期する外はない。當所の目的とするところは、此重大なる使命を果さんとするにある。

〔研究の發表〕 當所の研究成績は、歐文學術報告 Scientific Papers of the Institute of Physical and Chemical Research 及び Supplement 並に理化學研究所彙報及び同 Abstracts を發行して内外に發表する。

昭和十五年六月までに歐文報告は、第一卷より第三十七卷まで九百七十九號、彙報は、第一輯より第十九輯まで百九十四號を刊行して廣く一般に販賣してゐる。又場合によりては内外専門雜誌等にも掲載する。その外研究成績報告講演會によつても發表する。此講演會は既に三十七回を開催した。

〔工業的試験〕 理化學の應用方面の研究が研究室内で完成した場合は試験的作業を行ひ、工業として成立の目的及事業

見込みありや否やを確めるのである。此試験で相當の成績を挙げた後は其性質により或は所内に製造設備を爲して作業し、或は他に其製造を託し、又は當所との報償契約の下に新會社が設立されるのである。目下工業として成立し、又は成立せんとして居るものは可なり多い。この應用研究の成功する第一の素因は、背後に堅實なる純正科學の研究がある爲めであるから、幸に此等工業で收益を得、寄附を受けた場合は、其一部は純學術方面の研究費に振り當て、一部は發明者への報酬とするのである。

〔機械製作〕 理化學の研究に用ゆる精密機械類は一般の機械類と其趣を異にし、一般工場では製作することの出来ないものが多い。當所は比較的大規模の機械製作工場を設け、所内にて用ゆる機械の製作及修繕を爲す外、他の注文に應じて研究用の特殊の機械器具類を製作してゐる。目下製作して居るものは、別冊に記載せる如く未だ種類は少いが、従來海外より輸入して居た精密機械、測定機械を製作し得るのみならず、外國品よりも優秀の製作品がある。

二 沿革

〔設立の發端〕 大正二年六月、工學博士藥學博士高峰讓吉氏が米國から歸朝の際、帝國の現狀に鑑みて、國民科學研究所設立の必要ある事を高唱した。此計畫は約二千萬圓の資金を以て研究所を設立せんとするものであつたが、三十名の實業家及學者より成る調査委員會は、當時の我國財界の事情に徴し、先づ五百萬圓位の資金を

以て、差當り最も急務とする化學研究所を設立せん事を企畫し、翌大正三年三月、調査委員七名連署して貴業兩院へ化學研究所設立に就いての請願書を提出したが、不幸、議會の解散に遇つて其目的を達する事が出来なかつた。

大正三年八月、歐洲大戰勃發し其餘波を受けて外國との交通は一部杜絶し、醫藥品及工業原料の輸入は梗塞或は制限せられ、我國の衛生上及産業上多大の障害を來したので、農商務省は化學工業の振興策を講ずる爲調査會を設置し、同年十一月第一回調査會を開きたるに、我國に於ける化學工業の改良發達を圖るには、化學研究所設立を以て第一の急務とし農商務大臣に建議書を提出した。

大正四年三月、第二回の化學工業調査會に於いて、偶委員中に化學のみの研究では其範圍が狭過ぎるゆへ、物理學及化學の兩方面に亙る理化學研究所を設立しては如何との議起り、此議に對し各委員多數賛同し、長井長義渡邊渡、高松豊吉、櫻井錠二、古在由直の五博士を特別委員に擧げて、實行方法を一任する事になつた。仍つて右特別委員等は、直ちに商工局長及大學教授等と相會し、更に數回の協議を重ね設立計畫の概要、研究事項等を協定し、曩に有志の計畫せる化學研究所設立案との連絡統一を得、澁澤、菊池、山川の三男爵及中野武營氏並に前記特別委員主唱者となり、大正四年四月、設立に關する草案を主なる實業家及當路者に送附して其賛同を求め、茲に理化學研究所設立の曙光を見るに至つたのである。

其當時起草された設立趣旨は次の通りである。

理化學研究所設立ノ趣旨

明治維新以降帝國ノ文明ハ長足ノ進歩ヲ爲シタリト雖其ノ由テ來ル所ヲ察スルニ主トシテ歐米先進諸國ノ模倣ニ勉メタルノ結果ニ外ナラズ。而シテ理化學及之ヲ應用シタル各般ノ技術ニ於テ殊ニ其ノ然ルヲ見ル。想フニ理化學ニ對スル我邦人固有ノ發明トシテハ世界ニ誇稱スベキモノ甚ダ鮮ク、學者ハ今尙歐米諸國ニ於ケル研究ノ成果ヲ追從スルニ是レ急ニシテ、自ラ進ムデ是等學理ノ獨創的研究ヲ爲サムトスルモ、其ノ設備ト經費トニ缺ク所アリテ未ダ十分ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザルノ實狀ニ在ルハ、遺憾ノ極ト言ハザルベカラズ。吾人ハ固ヨリ永ク此ノ如キ狀態ニ安ムズベキニアラズ。速ニ相當ノ研究所ヲ設立シ此種ノ研究ヲ盛ナラシメ、以テ百般工業ノ根本ヲ啓沃シテ其ノ健全ナル發達ヲ促進スルト共ニ、我國ノ自ラ研究シ自ラ發明シタル所ヲ以テ、久シク外國ニ負ヒ來リシ智能上ノ債務ヲ償却シ、進ムテ世界ノ文運ニ貢獻スルコトヲ期セザルベカラズ。試ニ歐米諸國ニ就テ此種ノ實例ヲ求メムカ、英國ニハ國立理學研究所アリ、佛國ニハ工藝試驗所アリ、北米合衆國ニハ國立標準局アリ、獨逸國ニハ國立理學研究所及ウイルヘム帝化學研究所アリ、普國ニハ國立材料試驗所アリ、概ネ官公立ノ性質ヲ有ス。其ノ他富豪又ハ篤志者ノ建設セル私設ノ營造物ニ至テハ學ゲテ數フベカラズ。加フルニ各種ノ大工場亦各其ノ試驗所又ハ研究所ヲ附設スルアリ。理化學ノ學理ト之ガ應用ニ關シテハ官民戮協シテ之ガ研究ヲ相競ハザルナシ。歐米列國ニ於ケル文運進暢ノ勢、汪然トシテ當ルベカラザルモノアルハ、其ノ由來スル所決シテ偶然ニアラズト謂フベシ。

今ヤ帝國ハ三大戰役ヲ經テ國威益々揚リ、國際上ノ位置愈々隆キテ加ヘタリト雖、此勢力ヲ維持シテ倍々之ヲ皇張セムトスルニハ國費ヲ要スルコト彌々多カラザルヲ得ズ。然ルニ我國ハ面積甚大ナラズ、農業鑛業其ノ他原始産業上ノ富源亦豐カナラザルヲ以テ、産業上ノ國是トシテハ一ニ智能上ノ生産ヲ潤澤ナラシメ、以テ是等ノ闕如スル所ヲ補フノ外アルベカラズ。智能上ノ生産ヤ、其ノ源泉トスル所ハ一ニ理化學ノ研究ニ存ス。研究愈々深クシテ之カ應用益々廣キテ得バ、源泉分流共ニ滾々トシテ盡クルコトナク、此種生産ノ增加亦隨テ旺盛ナルヲ致サム故ニ、理化學ノ研究ト之ガ應用トヲ遺憾ナカラシメムガ爲、茲ニ理化學研究所ヲ設置スルハ定ニ刻下時勢ノ切要ニ應ズルモノナリ。

殊ニ今次歐洲ノ戰亂アリテ以來列國トノ通商交通一時ニ杜絶セラレ、若ハ甚シク制限セラレ交戰國ハ數多ノ重要品ノ輸出ヲ禁止シタル爲、我邦藥業者及工業者ハ何レモ其ノ必要トスル藥品又ハ原料ノ中之ヲ得ル能ハザルモノヲ生ジ、當時政府ハ是等ニ對シ種々劃策スル所アリシガ時局ハ實ニ幾多重要ナル教訓ヲ我邦人ニ與ヘタリ。隨テ今後醫術上ニ於テハ藥劑ノ獨立ヲ完ウスルノ必要アルコト、又工業上ニ於テハ其ノ基礎タルベキ一定ノ物質ハ之ガ自給ノ途ヲ確立セザルベカラザルコト、殊ニ國防上ニ於テ軍事材料ノ獨立ヲ確保スベキコトヲ一般ニ覺知セシメタリ。就中最モ重要ノ教訓トスベキハ、智能上ニ於テ、我邦復タ從來ノ如ク常ニ歐米列國ニ倚賴スベカラザルコトヲ深ク感悟セシメタルコト即チ是ナリ。

要之理化學ノ獨創的研究ヲ旺盛ナラシメ、以テ工業其他一般産業ノ發達ヲ期スルト共ニ我邦人ノ發明能力

理化學研究所案内

六

ヲ發揮シテ、智能上ノ生産力ヲ充實スルハ、我邦目下ノ急務ナルノミナラズ、永遠ニ富強ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所以ニシテ、理化學研究所ノ設置ハ此目的ヲ達セムトスルニ外ナラズ。吾人這般之ガ設立ヲ企圖スルヤ、政府ハ理化學研究所國庫補助法ヲ發布シテ十年間ニ二百萬圓ノ補助金ヲ交付セラレムトシ、畏クモ皇室ニ於テモ亦御下賜金ノ御内議アルヲ拜聞セリ。希クハ江湖ノ諸士吾等ノ意ノ在ル所ヲ諒トセラレ、奮テ此舉ニ賛同シ、十分ノ助力ヲ與ヘラレムコトヲ。

大正四年四月

斯くて理化學研究所の設立を促進せんが爲めに、大正四年六月時の總理大臣大隈伯爵は内務、大藏、文部及農商務各省の關係當局、學者及實業家を私邸に招致して設立協議會を開き、超えて大正五年一月、澁澤男爵外十一名連署して内閣總理大臣、大藏大臣及農商務大臣へ、設立計畫に對し政府の補助を仰がん事を建議した。

理化學研究所設立ニ關スル建議

世界ノ文運ニ貢獻シ以テ益々國威ヲ宣揚スルト共ニ、百般工業ノ根本ヲ啓沃シ、以テ國富ノ増進ヲ期センニハ、理化學ニ關スル獨創的研究ヲ旺盛ナラシメザルベカラズ。而カモ今次ノ歐洲戰亂ハ今後益々軍事材料ノ獨立、工業物資ノ自給ヲ企畫スルノ緊要ナルコトヲ教へ、吾人ヲシテ理化學研究ノ必要ヲ愈々痛切ニ覺知セシメタリ。然ルニ我國ニ在リテハ、從來此種ノ研究機關ニ於テ闕クル所アルヲ以テ、民間有志ニ於テ理化學研究所設立ノ計畫アリ。然ルニ此事業タルヤ、少ナカラザル資金ヲ要シ、民間有志ノ獻金ノミヲ以テハ到

底所期ノ目的ヲ達スル事能ハザルガ故ニ、政府ハ國家事業トシテ之ヲ助成シ、理化學ノ研究ヲシテ遺憾ナカラシメ、以テ國運ノ發展ヲ期スル爲メ、速カニ適當ノ措置ヲ採ラム事ヲ切望ス。

右別紙豫算概算書相添へ、謹テ及建議候也(豫算概算書省略)

大正五年一月二十一日

〔國庫補助に關する法律〕

政府に於ても豫てより設備の完全なる研究機關設置の必要を認めて居たので、前記大正五年一月の建議に基き、第三十七帝國議會に理化學を研究する公益法人に對し國庫補助を爲す法律案と、大正五年度に於て補助すべき金二十五萬圓の追加豫算とを提出せるに、兩院の協賛を得、大正五年三月六日同法律案が公布せられた。

法律第十六號

第一條 産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ目的トスル公益法人ノ一ニ對シ政府ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ限リ毎年二十五萬圓以內ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ノ總額ハ二百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 前條法人ノ業務ハ農商務大臣ノ監督ニ屬ス

農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ指揮監督シ之カ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

此補助金に就ては大正五年度より同十一年度迄に百六十五萬圓の交付を受けたが、其後當所の研究を更に一層盛大にする爲め再び第四十六帝國議會で補助金に關する改正法律案が通過し、大正十二年度より向十ヶ年間毎年二十五萬圓宛經常費の補助を受くる事になつた。此法律案は大正十二年四月二日左記の通り公布せられた。

法律第四十號

大正五年法律第十六號中左ノ通改正ス

第一條中「十年」ヲ「十七年」ニ「二百萬圓」ヲ「四百十五萬圓」ニ改ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔設立〕

基礎準備略々成り、第一回、第二回と設立發記協議會を開き、澁澤男爵を創立委員長に櫻井、高松、團の三博士、和田豐治、大橋新太郎、中野武營、莊清次郎の四氏を常務委員に推舉し建築及設備に就ては物理學部を長岡半太郎、大河内正敏兩博士に、又化學部を池田菊苗、井上仁吉兩博士に囑託した。そこで委員長及常務委員は設立の趣意書、計畫書及研究所の行はんとする事業と産業との關係を明かにした「理化學研究所の事業と産業界」を刊行して各方面に配布し、傍ら實業家を歴訪して寄附金の勧誘に努められたところ、富豪及篤志家より多數の寄附金が集つて、大正六年三月十九日迄に其申込總額二百八十八萬七千圓に達した。澁澤男爵は設立者の總代となつて東京府知事を経て農商務大臣に財團法人理化學研究所設立の許可を申請した。農商務大臣よりは直

ちに指令第三六九二號を以て許可された。實に大正六年三月二十日である。

〔御下賜金〕

當所設立の事天聽に達し、大正六年四月二十六日左記寫の通り金百萬圓御下賜の恩命に浴した。當所は大御心に副ひ奉らんが爲め、恩賜金は基金として永遠に保存する事に決議せられた。

財團法人理化學研究所

一金百萬圓 今般其ノ所設立ノ趣被聞食學術及産業御獎勵ノ思召ヲ以テ御補助トシテ大正六年以降十ヶ年間

金十萬圓宛即前記ノ通下賜候條

聖旨ヲ奉體シ畢勉努力以テ其ノ目的ヲ遂成セムコトヲ期スヘシ

大正六年四月二十六日

宮 内 省

〔總裁〕

當所の總裁には、皇族を奉戴することに寄附行爲で定められてゐる。仍て設立者一同の希望により伏見宮貞愛親王殿下を總裁として奉戴の議を其筋に願ひ出でたるに、大正六年三月二十八日御承諾被爲在たる旨の通牒があつた。總裁奉戴式は大正八年十一月二十六日、帝國ホテルに殿下の台臨を仰ぎ、關係者一同參列して學行した。其際左の令旨を賜つた。

令旨 理化學ハ文化ノ淵源富強ノ根本ニシテ之カ研究ヲ務ムルハ即チ國家發展ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所
以ナリ貞愛此ノ趣旨ヲ以テ設立セラレタル本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣ヒトスル所ニシテ職員及有志ノ
協賛ニ依リ本所ノ事業ヲ遂行シ邦家ノ爲貢獻スル所アラムコトヲ庶幾フ職員及協同ノ諸員斯ノ意ヲ體シ益々

努ムル所アレ

大正八年十一月二十六日

大勳位功二級 貞 愛 親 王

總裁宮殿下には其後大正十一年十月二日當所に成らせられ、大河内所長より設立以來の經過、建築、設備並に研究の概況等を聞召され、次で各館を隈なく御檢閲あらせられ、且つ研究室主任より研究の現況並に其成績等に就て、御熱心に説明を聞召された後、研究員一同を御前に召され左の令旨を賜つた。

令旨 惟フニ理化ノ學ハ國防及産業ノ基礎ニシテ世界各國銳意之ガ研究ニ従事セサルハナシ今ヤ本所ノ建築設備モ略ホ竣リ創業以來日猶淺キニ係ラス其成績ノ見ルヘキモノアルハ予ノ深ク欣悦トスル所ナリ諸子益々奮勵努力シテ國家ノ富強ニ資セヨ

大正十一年十月二日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功二級 貞 愛 親 王

其後伏見宮貞愛親王殿下には大正十二年二月四日薨去あらせられ、新に伏見宮博恭王殿下を總裁として奉戴の儀が允許あらせられたので、大正十二年十一月二十日、殿下の台臨を當所に仰ぎ奉戴式を舉行し、博恭王殿下より左の令旨を賜つた。

令旨 惟フニ理化學ノ研究ハ文化ノ開發ヲ促シ富強ヲ増進スル所以ニシテ國運發展ノ基礎實ニ此ニ存ス今

予先考ノ後ヲ受ケテ新ニ本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣幸トスル所ナリ冀クハ職員及協賛諸員ノ補翼ニ依

リ益々本所ノ事業ヲ擴充シテ紹述ノ實績ヲ擧ケンコトヲ諸子ヨク斯ノ意ヲ體シテ國家ニ貢獻スル所アレ

大正十二年十一月二十日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功四級 博 恭 王

〔所長〕 大正六年設立當時の所長は、理學博士男爵菊池大麓氏であつたが、就任後間もなく急病にて卒去され、同年十月工學博士男爵古市公威氏が其後を繼がれた。男爵は設立匆忙に多忙の際、熱心其職に盡されたが、劇務の爲健康を害せられ大正十年九月辭任された爲、爾來工學博士子爵大河内正敏氏が就任し今日に及んで居る。

〔三菱造船株式會社研究所寄附の件〕 昭和八年三月三十一日三菱造船株式會社より東京市本郷區駒込上富士前町百五十七番地所在同社研究所々屬建物機械設備其の他一切を、男爵岩崎久彌氏より同敷地を當所に寄附の申込があつた。四月一日附を以て受諾之が引繼を了し、第二十三號館と稱することにした。

三 組 織

〔資金〕 當所は、下賜金、政府補助金及法人竝に個人の寄附金より成る財團法人で、商工省の管轄に屬して居る。昭和十五年三月三十一日現在資金額は金八百七十四萬四千六百二十一圓三錢で、今まで敷地、建物及設備

に投ぜられた額は金一千四十一萬九千五百六圓六十錢である。

〔會員役員及職員〕 昭和十五年七月一日現在、法人組織による會員は百八十名で、役員は總裁一名、理事十六名、監事二名、評議員五十二名である。(附録役員名簿参照)

職員は千七百五十八名で、夫れを大別すると

研究に直接従事する者 七百十六名

内譯 主任研究員 三十三名

技師、助手、技手 百三名

研究生 百二十七名

研究の介助を爲す者 技師以下二百二十七名

工作實習中の者 見習二百八十五名

試験作業に従事する者 技師以下四百三十一名

事務に従事する者 主事一名及副主事以下四十三名

雑役に従事する者 六十六名

〔研究室〕 研究室は夫々主任研究員の姓名を冠し、現在飯盛、磯部、石川、石田、飯高、西、西川、仁科、

本多、星野、大河内、和田、片山、高嶺、辻、長岡、野口、久保田、眞島(利)、眞島(正)、深川、海老原、青山、

赤平、喜多、木村(正)、木村(健)、木下、菊池、清水、瀬藤、鈴木(庸)、鈴木(梅)の三十三室ある。尤も此等研究室全部が當所内にあるのではなく、便宜上主任研究員の所在地に置いてある。

即ち石川、本多、青山の三研究室は東北帝國大學總長の許可の下に同大學内に、喜多、木村(正)兩研究室は同様京都帝國大學内に、眞島(利)研究室の一部及菊池研究室は大阪帝國大學内に、又海老原、星野の兩研究室は東京工業大學内に在る。

而して各研究室は夫々室専有の豫算を持ち、經費の使途は主任研究員に一任されて居て、室の設備に多くを支出するも、又人件費に多くを使用するも夫れは全く自由である。猶研究室には左の七係が配屬して居る。

1 倉庫係

一、研究用貯藏物品の配給に關する事項

二、研究室用物品臺帳及出納帳簿の記入、整理に關する事項

三、研究室の取締竝に營繕に關する事項

此倉庫係は研究室で日常に使用する消耗品、各種藥品、其他最も多く使ふ雜貨をも貯藏し、各研究室及所内各部へ一定の價格で供給し、割當てられた豫算から差引いてゐる。

2 圖書係

一、圖書の保管、整理に關する事項

組 織

- 二、圖書の購入に關する事項
- 三、圖書閱覽に關する事項
- 四、製本に關する事項

3 研究成績發表係 (通稱編纂係)

- 一、研究成績報告文書刊行竝に同發賣頒布及講演に關する事項

當所研究員の中から選舉せられた研究成績發表委員は歐文報告及邦文彙報其他一切の原稿の整理、出版手續及内外國各方面への出版物の寄贈或は交換に就いて協議を開く等、當所から刊行する出版物一切の仕事をする。

4 幻燈係

- 一、幻燈機及活動寫眞映寫機の保管竝に幻燈圖板の調製に關する事項

5 工作係

- 一、機械器具の製作竝に修繕に關する事項
- 二、機械器具及材料の購入竝に保管に關する事項

工作係は設計製圖、機械、第一仕上、第二仕上、調整、測機、鑄工、鍛工、レンズ、硝子、塗工、木工の諸部から成つて居て、技師以下四百七十五名居る。研究室から注文の諸機械器具の製作竝に修理等は勿論、研究室外よりの注文に對しても出来るだけ應じて居る。

6 電氣係

- 一、動力、電燈、電話其他電氣機に關する事項

7 機械係

- 一、汽機、汽罐、液體空氣、壓搾瓦斯其他に關する事項

〔事務室〕 一般事務は左の二係で分掌して居る。

1 庶務係

- 一、所印及職印の保管
- 二、役員、會員及職員の進退に關する事項
- 三、役員會議に關する事項
- 四、機密に關する事項
- 五、建設工事に關する事項
- 六、土地建物及樹木の管理に關する事項
- 七、事務室用物品の購入保管に關する事項
- 八、構内取締に關する事項
- 九、電話交換に關する事項

一〇、製作品の販賣に關する事項

一一、前項の外他係に屬せざる事項

2 會計係

一、豫算、決算に關する事項

二、御下賜金、政府補助金及一般寄附金に關する事項

三、現金、有價證券の出納保管に關する事項

四、現金、有價證券出納諸帳簿及證據書類の整理に關する事項

五、取引銀行に關する事項

四 寄附行爲、規則及規程

〔寄附行爲〕

第一章 目的及事業

第一條 本所ハ産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其ノ成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ以テ目的トス

第二條 本所ハ前條ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スノ外左ノ事業ヲ行フ

一、一定ノ事項ヲ指定シテ研究ヲ依頼シ又ハ本所ノ設備ノ利用ヲ希望スル者アルトキハ其ノ需ニ應スルコト

二、研究及發明ヲ獎勵スヘキ施設ヲ爲スコト

三、研究及調査ノ成績ヲ公ニスル爲印刷物ヲ刊行シ又ハ講話ヲ爲スコト

第二章 名稱及事務所

第三條 本所ハ財團法人理化學研究所ト稱ス

第四條 本所ハ事務所ヲ東京市本郷區駒込上富士前町三十一番地ニ置ク

第三章 會員及資産

第五條 本所ノ事業ヲ翼賛シテ金錢又ハ物件ヲ寄附シタル者ヲ會員ト稱ス

第六條 本所設立ノ日ニ於ケル資産ハ左ノ如シ

一、現金拾萬五千圓也

二、設立初年目ニ於ケル寄附年賦金五拾萬五千七百圓也

三、設立二年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬五千七百圓也

四、設立三年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬四千六百圓也

五、設立四年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也

六、設立五年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也

第七條 本所ノ資産ハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ其ノ一部ヲ基金ニ充ツ

寄附行爲、規則及規程

基金ハ他ノ資産ト區別シテ之ヲ管理保存スルモノトス但シ評議員會ノ議決ヲ經總裁ニ上申シ之ヲ處分スルコトヲ得

第八條 本所ノ資産ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預入レ利殖ヲ圖ルモノトス

第九條 本所ノ經費ハ基金ノ利息及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十條 本所ノ豫算ハ毎年度評議員會ノ議決ヲ經テ決算ハ評議員會ノ認定ヲ經テ總裁ニ上申スルモノトス

第十一條 本所ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 總裁、副總裁及顧問

第十二條 本所ニ總裁一人及副總裁二人ヲ置ク

總裁ニハ皇族ヲ奉戴ス

副總裁ハ總裁之ヲ委囑ス

副總裁ハ總裁ヲ補翼ス

第十三條 總裁ノ諮詢ニ應スル爲顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總裁之ヲ委囑ス

第五章 役員

第十四條 本所ニ理事二十人以内監事十人以内ヲ置ク

理事及監事ハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

前項ニ依リ選任セラレタル理事ノ就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第十五條 本所ニ所長一人ヲ置ク

所長ハ理事中ヨリ總裁之ヲ委囑ス

所長ハ本所ヲ代表ス

所長ハ理事過半數ノ同意ニ依リ委任ヲ受ケタル事務ニ付之ヲ專行ス

所長故障アルトキハ總裁ノ指名シタル理事代テ其ノ職務ヲ行フ

第十六條 理事及監事ノ任期ハ三年トス但シ再任スルコトヲ妨ケス

補缺役員ノ任期ハ前任ノ者ノ殘任期間トス

第十七條 本所ニ評議員百五十人以内ヲ置ク

設立當初ノ評議員ハ設立者ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

評議員ノ補充ヲ要スルトキハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

第六章 補則

第十八條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

寄附行爲、規則及規程

第十九條 將來本寄附行為ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項評議員會ノ議決ハ事務所ヲ變更スル場合ヲ除クノ外評議員總數三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

〔財團法人理化學研究所規則〕

第一章 評議員會

第一條 定時評議員會ハ毎年一月及六月所長之ヲ招集ス但シ所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ招集スルコトヲ得

評議員五分ノ一以上又ハ監事ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ所長ハ臨時評議員會ヲ開クコトヲ要ス

第二條 評議員會ノ議長ハ評議員會ニ於テ毎回評議員中ヨリ之ヲ互選スルモノトス

第三條 評議員會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ其ノ議決ヲ以テ指名選舉法ニ依ルコトヲ得

第四條 評議員會ハ評議員總數ノ五分ノ一以上出席スルニ非レハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一事項ニ付再度招集スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

評議員會ニ出席セサル評議員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ評議員ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得

第五條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六條 評議員會ニ於ケル議事ノ經過ハ議事要録ニ登錄シ議長及出席評議員二名以上之ニ署名スルモノトス

第二章 理事會

第七條 本所ノ事務ハ理事過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ行フ但シ理事過半數ノ同意ヲ以テ其ノ事務ノ一部ヲ所長ニ委任スルコトヲ得

第八條 所長ハ本所ノ事務ニ付協議ヲ爲ス必要ノ都度理事會ヲ招集スルコトヲ得

第九條 理事會ニ於テ出席者過半數ニ達セサルトキハ所長ハ書面ヲ以テ缺席者ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第十條 理事會ノ議長ハ所長ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 第六條ノ規定ハ理事會ニ之ヲ準用ス

第三章 職員

第十二條 本所ニ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員	若干人	助手	若干人
技師	若干人	技手	若干人
主事	一人	副主事	二人以内
書記	若干人	雇	若干人

第十三條 所長ハ所務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

寄附行為、規則及規程

第十四條 研究員ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ總裁之ヲ委囑ス
技師、主事及副主事ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ任免ス
助手、技手、書記及雇ハ所長之ヲ任免ス
第十五條 所長ハ業務ノ都合ニ依リ囑託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

第四章 雜 則

第十六條 副總裁、顧問及監事ハ理事會及評議員會ニ列席シ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得
第十七條 評議員會ニ報告スル決算書ニハ監事ノ意見ヲ添フヘシ
第十八條 所員ノ給與ニ關スル規定其ノ他本所ノ業務執行ニ必要ナル規定ハ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ定メ評議員會ニ報告ス
第十九條 將來本規則ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申スルコトヲ要ス

〔財團法人理化學研究所職員ノ爲シタル發明實用新案及意匠ニ關スル規程〕

第一條 本規程ニ於テ職員ト稱スルハ財團法人理化學研究所規則第十二條及第十五條ニ規定スル職員ヲ謂フ
第二條 職員カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所之レヲ承繼ス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ
第三條 前條ノ發明ニ關スル特許權ハ發明者ノ希望ニ因リ本所ノ承諾アリタルトキハ本所ト發明者トノ共有ト

爲スコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依リ特許權カ本所ト發明者トノ共有ニ係ル場合ニ於テハ特許料ハ本所ノ負擔トス但シ發明者カ本所ノ同意ヲ得テ特分ヲ讓渡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第五條 本所カ第二條ノ規定ニ依リ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ發明者ニ支拂フヘキ補償金ハ特許發明ノ實施ニ因リ利益金、特許發明ノ實施ノ許諾ニ對シテ支拂ヲ受ケタル報酬金、法律ノ規定ニ依リ實施權ヲ有スル者ヨリ支拂ヲ受ケタル補償金、特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ノ讓渡ニ因リ對價トシテ支拂ヲ受ケタル金額及特許權ノ制限、收用又ハ取消ニ因リ政府ヨリ補償金トシテ支拂ヲ受ケタル金額ノ百分ノ五十トス但シ發明ニ關スル事情其ノ他ヲ斟酌シ百分ノ二十五ノ範圍内ニ於テ本所ノ認定ニ依リ之レヲ増減スルコトヲ得
數人ノ職員カ共同シテ發明ヲ爲シタルトキハ各發明者ニ支拂フヘキ補償金ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ各發明者ノ受クヘキ補償金額ハ本所ノ定ムル處ニ依ル
第三條ノ規定ニ依リ本所ト發明者ト特許權ヲ共有スル場合ニ於テハ發明者ノ持分ヲ以テ前項ノ補償金ト看做ス
特許權取得後五年ヲ經過スルモ第一項ノ補償金ヲ支拂フコト能ハサルトキハ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第六條 國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之レヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトス

寄附行爲、規則及規程

第七條 職員カ本所ニ於テ職務上特許法第三條第二號乃至第三號ノ事項ニ付特許ヲ受クルコトヲ得サル發明ヲ

爲シタルトキハ本所ハ物ノ發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ發明

ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

前項ノ場合ニ於テ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第八條 第二條ノ規定ニ依リ本所カ職員ノ爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ本所カ其發明ニ付特許ノ出願ヲ爲ササルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條 第二條ノ場合ニ於ケル本所ノ特許出願前又ハ前二條ノ場合ニ於テ發明者カ自ラ發明ヲ實施シ又ハ他人

ニ發明ノ内容ヲ知ラシメタルトキハ本所ニ對シテ之レニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ賠償スヘキモノトス

第十條 本規程ハ實用新案若ハ意匠ノ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權若ハ意匠權ニ付之レヲ準用ス

(參照)

規則第十二條 本所ハ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員、助手、技師、技手、主事、副主事、書記、雇

規則第十五條 所長ハ業務ノ都合ニ依リ囑託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

〔財團法人理化學研究所ト研究依頼者又ハ研究生依頼者トノ間ニ於ケル特許發明實用新案ノ實施許諾ニ關スル契約規程內規〕

一、本所ノ會員ハ本所ノ目的ニ屬スル一定ノ事項ニ付費用ヲ負擔シテ其ノ研究ヲ依頼スルコトヲ得

二、本所ハ前項ノ依頼ニ應ジ研究ヲ爲ス場合ニ於テ之レニ從事スル本所ノ職員カ發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

三、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタルトキハ本所ハ研究依頼者ニ之レヲ通知スルモノトス

四、研究依頼者カ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ前項ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタルトキハ本所ハ實施期間實施區域實施方法報酬額其ノ他ノ實施ノ條件ヲ協議シ、協議調ヒタルトキハ優先シテ之レニ實施ヲ許諾シ他人ニ其ノ實施ヲ許諾セサルモノトス

五、前項ノ規定ニ依リ研究依頼者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾シタルトキハ其ノ限度ニ於テ本所ハ自ラ特許發明ノ實施ヲ爲ササルモノトス

六、第四項ノ規定ニ依リ本所カ研究依頼者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究依頼者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ特許發明ノ實施ニ依リ得タル利益金ノ百分ノ三十以上ニ相當スル金額トス

七、削 除

八、第六項ノ報酬金額ハ實施權者ニ營業年度ノ定メアル場合ニ於テハ營業年度ニ依リテ計算シ營業年度ノ末日ヨリ三十日内ニ營業年度ノ定メナキトキハ曆年ニ依リテ之レヲ計算シ翌年一月三十一日迄ニ本所ニ支拂フヘキモノトス

寄附行爲、規則及規程

九、第四項ノ規定ニ依リ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ受ケタル者カ許諾ノ日ヨリ一年内ニ其ノ實施ヲ爲ササルトキ、其ノ實施ヲ繼續シテ六月以上中止シタルトキ、其ノ實施ニ付充分ノ努力若ハ施設ヲ爲ササルモノト本所ニ於テ認メタルトキ又ハ本所ニ支拂フヘキ報酬金ノ支拂ヲ遲滞シ其ノ他ノ實施ノ條件ニ違背シタルトキハ本所ハ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ取消シ損害ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

十、財團法人理化學研究所研究生規程ニ依リ國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之レヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトシ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

十一、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタル場合ニ於ケル研究生依託者ニ對スル實施權ノ許諾ニ關スル條件及許諾ノ取消ニ付テハ第四項第五項第八項及第九項ノ例ニ依ル

十二、前項ノ規定ニ依リ本所カ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究生依託者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ研究生ヲ指導シタル主任研究員ノ意見ヲ聽キ本所ト研究依託者ト協議シテ之レヲ定ム

十三、實用新案ノ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ニ付テモ本内規ノ例ニ依ル

〔財團法人理化學研究所研究生規程〕

第一條 研究生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニ依リ研究員ノ指導ノ下ニ研究ニ從事スルモノトス

第二條 研究生ハ専門ノ素養アル者ニシテ研究室主任ノ推薦ニ依リ所長之ヲ任用ス

第三條 研究生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 研究生ノ研究ニ要スル諸費ハ依託者ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ本所之ヲ支辨スルコトアルヘシ

第五條 研究生ノ研究期間ハ二ケ年以内トス但シ研究ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ研究室主任ノ許可ヲ得テ延期スルコトヲ得

第六條 研究生疾病其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス

第七條 研究生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

〔財團法人理化學研究所工場技術練習生規程〕

第一條 練習生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニヨリ工作係指導ノ下ニ實習ニ從事スルモノトス

第二條 練習生ハ相當ノ經歷アル者若ハ試験ノ上適當ト認メタル者ノ内ヨリ所長之ヲ任用ス

第三條 練習生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 練習生ノ實習ニ要セル諸費ハ本所之ヲ支辨ス但シ時宜ニ依リ依託者ノ負擔トスルコトアルヘシ

第五條 練習生ノ實習期間ハ二ケ年以内トス但シ實習ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ工作係ノ許可ヲ得テ延期スル事ヲ得

第六條 練習生疾病其ノ他ノ事項ニ依リ作業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス

第七條 練習生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

五 位置、建物及設備

昭和十五年三月末日現在

〔位置〕 當所は本郷、小石川兩區の最北部の境界に跨つてゐて、購入敷地一萬二千坪（此價格金四十三萬一千三百十圓八十八錢）及岩崎男爵家寄附敷地二千八百十二坪である。即ち

本郷區駒込上富士前町

一萬五百七十八坪

小石川區駕籠町

四千二百三十四坪

〔建物及設備〕 當所の建物及設備は、大正七年度工事に着手し、大正十一年度に完成の豫定であつたが、工事着手後建設材料及工賃の暴騰したのと、寄附金の収入が豫期の通りにならなかつたので、已むを得ず緊急を要するものから逐次施工したるが爲め、豫定の期間内に完成するに至らず、大正十四年度内に於て漸く豫定計畫の工事を終了した。而して研究の進むと共に従來の研究設備の擴張を必要とするもの、或は新に半工業的實驗設備を爲す必要を生じた爲め、建物設備が追加され、又王子區に電機部、板橋區に志村映寫幕工場、靜岡市に靜岡工場の建設及び新潟縣宮内に精機部の移轉等があつて、創立以來昭和十四年度末迄に投じた建設費は、敷地費を併せて總額金一千四十一萬九千五百五十六圓六十錢に達した。其明細は左の通りである。

第一號館 飯盛、磯部、大河内、和田、片山、眞島(利)、鈴木(庸)、鈴木(梅)の八研究室、外に倉庫係、天秤室、燃燒室、引火性液蒸溜室、送風機室

第二號館 石田、磯部、西川、大河内、高嶺、長岡、眞島(正)、木下、清水、仁科の十研究室、恆溫室、材

料研究室、圖書室、講演室、事務室

第三號館 石田、西川、高嶺、木下、長岡、仁科の六研究室

第四號館 西、瀨藤、赤平の三研究室、電力室及電氣爐室

第五號館 各種交直流發電機室、液體空氣及酸素の製造場等

第六、八號館 工作係各作業場

第七號館 各種實驗場

第九號館 工作係作業場

第十號館 實驗室、書庫等

第十一號館 各種實驗室

第十二號館 化學實驗室

第十三、十四、十五、十六、十七號館 各種實驗室

第十八號館 飯盛、磯部、飯高、石田、西、西川、仁科、大河内、長岡、久保田、赤平、木下、瀨藤、鈴木(梅)

の各研究室、研究成績品並に參考品の陳列室

第十九號館 酒實驗室

位置、建物及設備

理化學研究所案内

- 第二十號館 工具研究室及同附屬建物
- 第二十一號館 酒實驗室附屬建物
- 第二十二號館 工作係事務室並に作業場
- 第二十三號館 飯高、仁科、大河内、辻、野口、深川の六研究室
- 第二十四號館 硝子研究室並に作業場
- 第二十五號館 化學研究室及作業場
- 第二十七號館 酸化皮膜研究室
- 第二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九號館 原子核に關する研究、實驗室及附屬建物並に木村(健)

研究室

- 第四十一號館 化學實驗室並に作業場
- 第四十三號館 特殊研究室
- 電機部 (王子區神谷町一丁目七三〇番地)
- 志村映寫幕工場 (板橋區志村清水町三七五番地)
- 静岡工場 (静岡市曲金二丁目一〇〇番地)
- 精機部 (新潟縣古志郡上組村宮内驛前)

建物明細書

昭和十五年三月末日現在

名	稱	構造	延坪數	價額	備考
第一	號館	煉瓦三階	一、二二六	五七〇、四五一・七四	化學研究
第二	號館	鐵筋四階	一、一七七	五〇九、五一七・二二	物理研究
第三	號館	鐵筋二階	三四九	一一一、七八八・一五	物理研究
第四	號館	鐵筋二階	三四五	一一〇、〇〇五・二二	物理研究
第五	號館	煉瓦平家	一六七	六二、四九八・六一	電力室、酸素製造場
第六	號館	鐵筋二階	四一一	一〇六、七三九・二九	機械製作
第七	號館	鐵骨平家	一〇〇	一九、八六四・四四	實驗室
第八	號館	鐵骨平家	一四三	二〇、八九二・二二	機械製作
第九	號館	鐵骨平家	一六五	二八、〇七四・七二	機械製作
第十	號館	鐵骨平家	一〇一	一一、一三三・九七	實驗室
第十一	號館	鐵骨平家	一四四	三一、六六一・三一	實驗室

位置、建物及設備

第十二號館	木造平家	四〇	二、八二一・一五	化學實驗室
第十三號館	鐵骨平家	七二	一四、八六九・八五	動物試驗室
第十四號館	木造平家	六六	二、一六一・五〇	實驗室
第十五號館	鐵骨平家	六〇	八、五三三・〇六	實驗室
第十六號館	木造平家	四一	二、六三七・七二	實驗室
第十七號館	鐵骨平家	四一	一七、三八一・五一	實驗室
第十八號館	鐵骨五階	八六四	三六五、五六六・五一	物理及化學研究(機關室共)
第十九號館	鐵骨二階	五九五	一〇四、五九〇・六三	酒實驗室
第二十號館	木造二階	一一五	二四、二三一・八三	工具研究室
同附屬建物	木造二階	一五五	一一、三五〇・〇〇	工具研究室
第二十一號館	鐵骨平家	八六	二二、七七五・七〇	酒實驗室附屬建物
第二十二號館	木造平家	三三八	二八、七六九・五六	工作係
第二十三號館	鐵骨三階	六三三	一九九、一五八・三三	化學及物理研究
第二十四號館	木造二階	三五四	八二、二四一・八五	硝子研究室

第二十五號館	木造平家	六七	二、七〇一・四八	實驗室
第二十七號館	木造平家	五四	一、七二二・六三	實驗室
第二十九號館	鐵筋平家	八八・二五		
第三十一號館	鐵筋平家	五二・一〇五		
第三十三號館	鐵筋平家	六六・〇		
第三十五號館	鐵筋平家	五一・〇		
第三十七號館	鐵骨鐵筋一部二階	一一七・五八	一〇六、七二三・五三	原子核實驗室
第三十九號館	木造平家	一八・〇		
渡廊下	鐵筋平家	一〇・五		
便所	鐵筋平家	二・〇		
第四十一號館	木造二階	一一〇	九、七五四・九四	實驗室
第四十三號館	鐵筋四階	四二二	一七二、四一三・七〇	特殊研究室
飯盛研究室	木造平家	六・二五	一三九・一七	
仁科研究室	木造平家	七	二九二・二二	

元電氣爐室	實驗室	實驗室	毒瓦斯室	酒實驗室	實驗室	倉庫	材料置場	材料置場	實驗室	實驗室	ヅA調劑室	ヅA研究室	仁科研究室
木造平家	木造平家	木造平家	木造平家	木造二階	木造平家	木造平家	鐵骨平家	鐵骨平家	木造平家	木造平家	木造平家	木造平家	木造平家
三〇	三八・七五	四〇	三	二五	五一	八六	三〇	五七	二一	一五	三六	二七	七
三六〇・〇〇	一、五四五・九〇	八九八・四〇	三一七・七〇	八二一・六五	三、六四五・二四	八、一八六・〇七	三、二一八・三〇	六、一一四・七〇	五、五四五・二五	一、一三三・一〇	二、五五七・四三	四、九七八・二四	三一四・一〇
		棟											

守衛所	詰業場	工作場	排水ポンプ室	變壓室	變壓塔	藥品庫	蓄電池室	鑄物場	鍛冶場	電氣爐室	給水ポンプ室	實驗室	
木造平家	鐵筋平家	鐵筋平家	鐵骨平家	木造平家	煉瓦平家	木造平家	木造平家	鐵筋平家	鐵筋平家	鐵筋平家	煉瓦地階	木造平家	
四	二六・二五	三五	七三	一一・七五	三	三・七五	三六	三三	二四	三〇	六五	一三・九九	
一、二五〇・〇〇	五、四三九・二四	一六、三七五・四六	一九、〇三二・九六	二、六〇三・七〇	五九三・五〇	三九五・一五	四一・五〇	九、七六七・五四	一二、七〇七・五〇	六、八八二・〇七	八、五九一・五二	二八、九三一・一〇	二、九八三・四〇
"	"	"	第二十三號館附屬								一部高壓實驗室		

同便所	同通用門	静岡工場	宮内精機部工場	小計	合計
鐵骨造	木造平家				
一、六七七・八	二、六一〇・五			四、八四〇・七二	一五、一六八・九五
一六六、〇〇五・一七十三棟	四〇四、九五八・四七十四棟			六四三、三一・八〇	三、六四六、二九九・五四
三四六・八二	一八四・五〇				
一・五					

設備明細書

區別	價格	備	考
器具・機械	四、一五二、七八一・〇九		
什器	三二〇、〇二二・三一		
圖書	六四九、九三〇・〇五		
電氣設備	四三六、九二二・〇八	配線 共	
瓦斯・水道設備	二九五、二〇四・六四	タンク、井戸 共	
暖房設備	二三五、二四六・八二	地階室及煙突 共	
構内設備	九五、八二八・五八		
合計	六、一八五、九一五・七五		

六 昭和十五年度研究項目

昭和十五年七月

〔研究事項〕 昨年度に於て研究事項は四百種であつたが本年度に在ては四百三十二種に増加した。此等研究事項は各研究室の主任研究員が随意に選擇するのである。又研究の範圍に於ても何等の制限をも置いてゐない。例へば化學者が物理の研究に立入ることも、物理學者が化學の研究に没頭することも其人の自由である。併し其の成績に就ては研究者は絶対の責任を負つてゐる。本年度の項目は次の如くである。(研究室名イロハ順)

1 飯盛研究室

- 一 化學變化に伴ふ放射線の研究
 - 二 無機發光體の研究
 - 三 膠質化學に關する研究
 - 四 放射線の化學作用及び接觸作用
 - 五 寫眞化學に關する研究
 - 六 稀土類鑛物の研究
 - 七 原子核反應の研究
- | | | |
|-----|------|------|
| 研究員 | 理學博士 | 飯盛里安 |
| 研究員 | 理學博士 | 岩瀬榮一 |
| 研究員 | 理學博士 | 岩瀬榮一 |
| 研究員 | 理學博士 | 岩瀬榮一 |
| 囑託 | 理學士 | 石動 弘 |
| 助手 | 理學博士 | 畑 晋 |
| 助手 | 理學士 | 飯盛武夫 |

- 八 アクチニウム系元素の研究
- 九 邦産特殊鑛物の産狀並に其選鑛法の研究
- 一〇 東京附近のロームの利用に關する研究
- 二 邦産原鑛より稀元素の抽出

2 磯部研究室

- | | | |
|-----|------|---------|
| 研究員 | 理學博士 | 畑飯 里 安 |
| 助 手 | 理學士 | 長 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |
| 助 手 | 理學士 | 畑 飯 盛 里 |

- 三 石炭及び油類の高溫高壓に於ける水素添加に關する研究

理化學研究所案内

- 三 電解質水溶液に関する研究
- 三 硝子電極及び其應用
- 三 鹽素と金屬酸化物との反應
- 三 ニツケルカルボニルの分解速度の研究
- 三 亞硫酸ガスと金屬硫化物との反應

4 石田研究室

- 三 高壓電場に於けるスペクトル線の變化に就て
- 三 電子電荷量の精密測定
- 三 分別蒸溜に関する研究
- 三 陰極線に依る纖維の研究
- 三 原子核に関する理論的研究
- 三 場の量子論に関する研究

四四

研究生 理學士 照井義雄
 助 理學士 萩澤浩
 研究 理學士 油井敬夫
 研究生 理學士 外崎巧一
 研究 理學士 杉沼文司
 研究 理學博士 石川總一
 研究 理學博士 鈴木弘子

研究員 フロイデリア
 助 手 石田義繁
 助 手 井村弘

研究員 フロイデリア
 研究員 フロイデリア
 研究員 フロイデリア
 助 手 田村整
 研究員 理學博士 武藤俊之助
 研究員 理學博士 武藤俊之助

四 固體の量子理論

- 四 Complex spectra のスタルク効果
- 四 分子スペクトルに於ける電場の影響
- 四 光線の通路往復によらざる光速度の比較測定
- 四 原子核の理論

5 飯高研究室

- 四 鐵鋼に於ける滲炭現象の研究
- 四 特殊鋼の研究
- 四 鑄鐵の物理化學的研究
- 四 電子廻折に依る防蝕被膜の研究
- 四 金屬の磨耗に関する研究

研究項目

四五

研究員 理學博士 武藤俊之助
 助 手 久保田廣
 助 手 上島源司
 研究員 理學士 久保田廣
 研究員 理學士 土井不曇
 囑 託 理學士 野上茂吉

助 手 飯高統郎
 助 手 鈴木敬治

研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎

研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎
 研究員 工學博士 飯高統郎

理化學研究所案内

三 ビストンリング材質の研究

四 電子廻折に依る磨耗の研究

五 電子廻折に依る物質構造及化學反應の研究

六 高温度の化學反應

七 ベリリウム合金の研究

八 輕合金の研究

九 電氣冶金に關する研究

十 蔬菜及び果實の物理化學的並に營養化學的研究

十一 果汁及び蔬菜汁の酵素化學的並にコロイド化學的研究

十二 植物酵素の研究

十三 果實酒の研究

6 西研究室

十四 球間隙の研究

十五 高電壓用電壓計の研究

十六 沿面放電の研究

十七 衝擊電壓に依る放電の研究

十八 高電壓碍子閃絡特性の研究

十九 高真空及高氣壓中の絶縁の研究

研究項目

四六

研究員 工学博士 飯高弘也

研究員 工学博士 光直

研究員 理学士 口成

研究員 理学士 井殿長

臨時研究員 工学博士 石真井

研究員 工学博士 田高隆一

研究員 工学博士 田高隆一

研究員 工学博士 田高隆一

研究員 工学博士 田高隆一

研究員 工学博士 田高隆一

臨時研究員 オブサイエンス 内藤下彦次郎

研究員 工学博士 本石御所 健七

研究員 工学博士 本石御所 健七

研究員 工学博士 西山島好忠

研究員 工学博士 中山島好忠

研究員 工学博士 西山島好忠

四七

理化學研究所案内

ガ 電弧放電の研究

セ 誘電體現象の研究

シ 油浸紙の絶縁性能に関する研究

ス 高周波に於ける誘電體損失角測定法の研究

セ 高周波電界内に於ける絶縁物の温度上昇

テ 高電壓磁石發電機に関する研究

ト 異種誘電體境界面及誘電體と金屬との境界面に起る電氣現象

チ シエリング高電壓電橋を應用せる誘電體現象の研究

7 西川研究室

ク 人工放射能の研究

研究員 工学博士 西風 誠三郎

助手 工学博士 西岡 條文三郎

研究員 工学博士 西岡 塚崎三郎

助手 工学博士 西岡 塚崎三郎

研究員 工学博士 西岡 塚崎三郎

助手 工学博士 西岡 塚崎三郎

研究員 工学博士 西岡 塚崎三郎

助手 工学博士 西岡 塚崎三郎

研究員 理学博士 西川 元重助

ク 緩中性子の研究

カ 原子核の人工變換

キ 原子核及素粒子に関する研究

ク 中性子の生物學的作用の研究

ケ 人工放射能の醫學的應用に関する研究

コ 大サイクロトロン建設

ク ウランの原子核分裂及人工放射能の研究

ケ サイクロトロンに依る人工放射能の研究

コ 有機化合物構造のX線的研究

カ ラムダ轉移に関する研究

ク 結晶の電媒性に関する研究

コ 二成分系としての分子性結晶蒸發壓に関する研究

研究項目

助手 理学博士 村上 一治郎

研究員 理学博士 篠原 健夫

助手 理学博士 青木 寛夫

研究員 理学博士 中村 孝一

助手 理学博士 中村 孝一

研究員 理学博士 中村 孝一

助手 理学博士 中村 孝一

研究員 理学博士 中村 孝一

助手 理学博士 中村 孝一

研究員 理学博士 中村 孝一

助手 理学博士 中村 孝一

研究員 理学博士 中村 孝一

助手 理学博士 中村 孝一

研究員 理学博士 中村 孝一

理化學研究所案内

- 一四〇 吸著平衡及解離平衡に関する研究
- 一四一 化學反應の機構と吸収スペクトル
- 一四二 液體燃料の燃焼機構
- 一四三 アルカリ土分離の研究
- 一四四 硅酸の容量分析法
- 一四五 モリブデン化合物に関する研究
- 一四六 樟腦酸の分析試薬としての研究
- 一四七 タングステン酸に對する有機試薬の研究
- 一四八 硝子の分析に関する研究
- 一四九 無機鹽類の分子化合物に関する研究
- 一五〇 沈澱の不純物包含に関する研究
- 一五一 潤滑油の研究
- 一五二 分析新試薬に関する研究

13 片山研究室

- 一五三 分子構造の理論的研究
- 一五四 化學反應機構の理論的研究
- 一五五 分子内部運動のラマン及び赤外スペクトルによる研究
- 一五六 結晶の廻轉子性轉移點に関する研究
- 一五七 双極子能率に對する分子構造及溶媒性質の影響
- 一五八 有機化合物の結晶體としての透電恆數
- 一五九 氣體の透電恆數及双極子能率の確立に関する研究
- 一六〇 電極反應と水素添加反應の比較研究
- 一六一 遲反應の統計力學的説明の研究
- 一六二 接觸水素添加反應の理論及實驗的研究
- 一六三 異性體の界面化學及反應機構論的研究
- 一六四 分子構造の電子廻折法に依る研究
- 一六五 電氣解離機構の研究

五六

- 一六六 嚙託 理學博士 飯島俊一郎
- 一六七 嚙託 理學博士 染野藤子
- 一六八 助手 理學博士 加藤セチ
- 一六九 助手 理學博士 石井頼三
- 一七〇 研究員 理學博士 北島三省
- 一七一 臨時雇 理學博士 北島三省
- 一七二 研究員 理學博士 笠間公彦
- 一七三 研究員 理學博士 阿藤 宣
- 一七四 研究生 關野幹次郎
- 一七五 助手 理學博士 和田猪三郎
- 一七六 助手 理學博士 石井頼三
- 一七七 研究生 理學士 外村シヅ
- 一七八 嚙託 理學博士 飯島俊一郎
- 一七九 研究員 理學博士 石川清一
- 一八〇 助手 理學博士 和田猪三郎
- 一八一 助手 理學士 石井頼三

研究項目

- 一五三 分子構造の理論的研究
- 一五四 化學反應機構の理論的研究
- 一五五 分子内部運動のラマン及び赤外スペクトルによる研究
- 一五六 結晶の廻轉子性轉移點に関する研究
- 一五七 双極子能率に對する分子構造及溶媒性質の影響
- 一五八 有機化合物の結晶體としての透電恆數
- 一五九 氣體の透電恆數及双極子能率の確立に関する研究
- 一六〇 電極反應と水素添加反應の比較研究
- 一六一 遲反應の統計力學的説明の研究
- 一六二 接觸水素添加反應の理論及實驗的研究
- 一六三 異性體の界面化學及反應機構論的研究
- 一六四 分子構造の電子廻折法に依る研究
- 一六五 電氣解離機構の研究

五七

14 高嶺研究室

一六 真空分光器による極端紫外部スペクトルの研究

一七 赤外部スペクトルの研究

一八 真空放電に於ける吸収スペクトルの研究

一九 極端紫外部に於ける金属の反射率の研究

二〇 水素及び重水素化合物の分子スペクトルの研究

二一 原子核の研究

二二 光學硝子の研究及製造

二三 光學機械の研究

二四 量子統計力學

研究員 高嶺 俊太郎
研究員 高嶺 雅夫
研究員 高嶺 彦次郎
研究員 高嶺 英夫
研究員 高嶺 善太郎
研究員 高嶺 一雄

二五 KD及びKH帯状スペクトルの研究
二六 分光化學

15 辻 研究室

二七 光弾性實驗裝置の改善及内力測定の研究

二八 廻轉體の光弾性實驗の研究

二九 ねぢの内力の研究

三〇 衝撃の研究

三一 精密歪計の研究

三二 瓦斯干渉計の研究

三三 寫眞機械の鮮銳度に關する研究

三四 微細目盛の研究

三五 坑内安全燈の研究

研究項目

研究員 理學博士 今西 直
研究員 理學博士 今西 直

研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝

研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝

研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝

研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝

研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝

研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝
研究員 工學博士 辻 正孝

理化學研究所案内

一六 冷凍機に関する研究

一七 冷煖房に関する研究

一八 保温材に関する研究

一九 傳熱に関する研究

二〇 復水管異状腐蝕防止に関する研究

二一 電解質溶液の理論的研究

二二 重要常數の値の研究

16 長岡研究室

二三 無線電信の急激消滅の原因研究

二四 地磁氣の微細なる變動と磁氣嵐の研究

二五 無極電氣振動による化學作用の研究

二六 鑛物に含まるゝ元素の探見

二七 無極放電の理論研究

六〇

助手 工學士 長岡 嘉久吉

助手 工學士 長岡 順吉

助手 工學士 高橋 武雄吉

助手 工學士 長岡 順男吉

助手 工學士 長岡 寅男吉

囑託 理學博士 芝 龜吉

囑託 理學博士 芝 龜吉

研究員 理學博士 長岡 半太郎

研究員 理學博士 長岡 半太郎

研究員 理學博士 長岡 半太郎

助手 理學博士 三島 忠雄

助手 理學博士 長岡 半太郎

囑託 理學士 栗野 保

一八 超短波による金屬蒸氣の發光に関する研究

一九 中性子の研究

二〇 人工放射能の研究

二一 陽子・重陽子と原子核との相互作用研究

17 野口研究室

二二 一次及び二次電池の研究

二三 電解成極の逆起電力に関する研究

二四 高溫度に於ける電氣絶縁

二五 雲母の電氣絶縁性能

二六 内燃機用電氣點火栓

二七 電氣滲透の應用

二八 重水の電解濃縮に関する研究

研究項目

助手 三島 忠雄

助手 理學博士 杉浦 義勝

助手 理學士 皆川 理

研究員 理學博士 杉浦 義勝

研究員 工學博士 野口 孝重

助手 工學博士 野口 孝重

研究員 工學博士 野口 孝重

研究員 工學博士 野口 孝重

研究員 工學博士 野口 孝重

臨時雇 工學博士 高野 圭一重

研究員 工學博士 高野 圭一重

六一

- 二〇九 内燃機燃料の電気点火の研究
- 三〇 電量計

18 久保田研究室

- 三二 自然瓦斯の利用に関する研究 (其一)
- 三三 自然瓦斯の利用に関する研究 (其二)
- 三三 有機三重結合分子の部分的水素化触媒の研究
- 三四 有機不飽和分子重合の研究
- 三五 アセチレンの利用に関する調査
- 三六 有機分子の失旋作用に関する研究
- 三七 単糖類に関する研究

研究員 理學博士 久保田 勉之助
 助手 理學士 赤司 嘉志和
 研究員 理學博士 久保田 利之助
 研究員 理學博士 久保田 常喜
 研究員 理學博士 伊藤 藤常
 研究員 理學博士 伊藤 敏秀
 研究員 理學博士 山田 龍雄
 研究員 理學博士 野口 孝重
 研究員 理學博士 野口 正信
 研究員 理學博士 野口 重信

- 三八 公孫樹中より抽出せらるゝ成分の研究
- 三九 カルボニル基の變化性に関する研究
- 三〇 含窒素有機化合物に関する研究
- 三二 煙草の煙の成分に関する研究
- 三三 芳香族炭化水素の合成
- 三三 纖維合成の研究

19 眞島(利)研究室 (一部は大阪帝國大學内)

- 三四 高分子化合物の合成的研究
- 三五 アルカロイド類に関する研究
- 三六 特種色素に関する研究
- 三七 合成醫藥品に関する研究

研究項目

研究員 理學博士 久保田 勉之助
 助手 理學士 赤司 嘉志和
 研究員 理學博士 久保田 一夫
 研究員 理學博士 久保田 嘉志和
 研究員 理學博士 久保田 利之助
 研究員 理學博士 久保田 常喜
 研究員 理學博士 久保田 敏秀
 研究員 理學博士 久保田 龍雄
 研究員 理學博士 久保田 孝重
 研究員 理學博士 久保田 正信
 研究員 理學博士 久保田 重信

研究員 理學博士 眞島 利之助
 研究員 理學博士 眞島 常三
 研究員 理學博士 眞島 敏行
 研究員 理學博士 眞島 重信
 研究員 理學博士 眞島 正信
 研究員 理學博士 眞島 重信

理化學研究所案内

二五 積雪の力學

二五 土壤凍土の研究

二五 微細目盛の研究

二五 電子幾何光學器械の研究

二五 金屬表面缺陷の研究

二五 光彈性による熔接の研究

二五 光彈性學材料

二六 金屬單結晶の研究

二六 共晶組織の研究

二六 高速度顯微鏡活動寫眞

21 深川研究室

二六 復水管異常腐蝕並に其防止に關する研究

六六

雇助 手 工學博士 松黒 下田 正 實夫

雇助 手 工學博士 木村 幸一 郎夫

雇助 手 工學博士 松黒 下田 正 實夫

雇助 手 工學博士 松黒 下田 正 實夫

雇助 手 工學博士 八黒 木田 敬正 治夫

雇助 手 工學博士 八黒 木田 敬正 治夫

雇助 手 工學博士 八黒 木田 敬正 治夫

雇助 手 工學博士 八黒 木田 敬正 治夫

雇助 手 工學博士 八黒 木田 敬正 治夫

雇助 手 工學博士 八黒 木田 敬正 治夫

雇助 手 工學博士 八黒 木田 敬正 治夫

雇助 手 工學博士 八黒 木田 敬正 治夫

二六 金屬酸化物の表面化學的研究

二六 高嶺土利用の研究

二六 特種塗料に關する研究

(イ) 船底に固着する生物の生態學的研究

(ロ) 船底塗料の化學的研究

二六 有機性絶緣體に關する化學的研究

二六 リグニンの利用に關する研究

二六 魚介類に關する化學的研究

二七 潤滑油に關する研究

二七 フェノール類に關する研究

研究項目

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

雇助 手 理學博士 深川 大 庫 選 豐造

六七

理化學研究所案内

二五 繰返し熱應力に依る金屬の亀裂發生現象の研究

二五 マグネシウム並に其合金の防蝕法の研究

二五 觸媒作用と磁氣の關係に對する研究

二五 配糖體に關する研究

二五 ストリキニーネの化學的構造の研究

二五 電氣熔接に關する研究

22 海老原研究室 (東京工業大學内)

二六 メタリック・パッキングの製作に關する研究

二六 勾配ころ軸の製作に關する研究

二六 精密なる「ねじ」及齒車の製作に關する研究

二六 單能工作機械の設計・製作に關する研究

二六 研磨砥石の性能に關する研究

研究員 理學博士 深川英一

嘱託 理學博士 小川英二

嘱託 理學博士 丸山英二

研究員 理學博士 小川英二

研究員 理學博士 丸山英二

嘱託 工學士 熊澤尙文

研究員 工學博士 海老原敬吉

助研員 工學博士 海老原敬吉

研究員 工學博士 海老原敬吉

助研員 工學博士 海老原敬吉

研究員 工學博士 海老原敬吉

研究員 工學博士 海老原敬吉

23 青山研究室 (東北帝國大學内)

二六 低溫度に於ける金屬及合金のヤング率及剛性率の研究

二六 低溫度に於ける金屬及合金の機械的性質の研究

二六 炭化水素瓦斯の低溫度に於ける分溜の研究

二六 低溫度に於ける窒素瓦斯の酸化研究

二六 低溫度に於ける凝縮瓦斯の熱力學的研究

二六 低溫度に於ける膨脹係數の測定研究

二六 X線吸収スペクトルに依る金屬及合金の研究

二六 低溫度に於ける化學反應の研究

24 赤平研究室

二六 電氣絶緣材料の高周波誘電體損失の研究

二六 電氣絶緣材料の高周波絶緣破壊の研究

研究項目

研究員 工學士 赤平武雄
助研員 工學士 赤平武雄
臨時員 工學士 赤平武雄
嘱託 工學士 赤平武雄

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一
研究員 理學博士 青山新一

理化學研究所案内

三三 不知火の研究

三三 金屬薄膜の分光學的研究

三三 金屬材料の定量分光分析

三三 ベンゼン及其誘導體の紫外部吸収スペクトルの研究

三三 電子光學に關する基礎的研究

27 木村(健)研究室

三三 人工放射性元素の化學的研究

三三 本邦に於ける稀産元素の資源

三三 共出岩石鑛物間に於ける諸元素の分配

三三 本邦温泉の化學的研究

三三 金屬地金中の不純物の分析法研究

28 木下研究室

三三 潤滑の研究

囑託 理學博士 宮西 通可

囑託 理學士 副島 吉雄

囑託 理學士 副島 吉雄

囑託 理學博士 淺越 貫一

囑託 理學博士 淺越 貫一

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

29 菊池研究室 (大阪帝國大學内)

三三 中性子の散亂に關する研究

三三 β 崩壊の研究

三三 同位體の分離

三三 電子顯微鏡の製作

三三 原子核の角運動量及磁氣能率の測定

30 清水研究室

研究項目

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

囑託 理學博士 井川 健二

理化學研究所案内

三五 電位測定法の研究

三五 音源による空気の擾亂に関する研究

三五 超高速寫真による瞬間現象の研究

三五 振動の記録法に関する研究

三五 振動體による流體の運動

三五 固體の變形及破壊に関する研究

三五 波浪に関する研究

三五 火花放電に関する研究

三五 火花放電に関する研究

三五 燃燒現象の物理的研究

31 瀬藤研究室

三五 聽音器用振動板の研究

三五 直流機整流範圍の擴張に関する研究

七六

研究員 理學博士 清水武雄

研究員 理學博士 清水武正

研究員 理學博士 清水武三

研究員 理學博士 清水武雄

助手 理學士 筒井俊正

助 理學士 平田森三

囑託 理學士 田幸彦太郎

囑託 理學博士 中谷宇吉郎

囑託 理學士 金原壽郎

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 若宮林明

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 石川華良

三五 高速度電動機用材料に関する研究

三五 振れ動力計の理論及應用

三五 耐熱性電気絶緣材料の研究

三五 格子制御方式を應用せる放電管により周波數變換裝置の理論的研究

三五 電機用刷子の實驗的研究

三五 アルミニウム酸化皮膜の電氣的應用

三五 電解型蓄電器

三五 アルミニウム酸化皮膜の本質及び應用

32 鈴木(庸)研究室

三五 臭化銀粒子と其媒間の關係

三五 高速度寫真乾板の研究及リップマン氏乾板の研究

研究項目

七七

研究員 理學博士 鈴木庸生

研究員 理學博士 鈴木庸生

研究員 工學士 大田孝泰

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

研究員 工學士 瀨藤象二

- 四〇 炭化水素の接觸酸化に関する研究
- 四一 米糠及醬油中の成分並に其利用法
- 四二 脂肪及びリポイドに関する研究
- 四三 菜種油の利用法
- 四四 ビオステリンの研究
- 四五 ヴイタミンAの化學的性質に関する研究
- 四六 ヴイタミンB₁に関する研究
- 四七 ヴイタミンB₂に関する研究
- 四八 ヴイタミンB₂複合體に関する研究
- 四九 ヴイタミンB₂複合體に関する營養試験
- 四〇 含水炭素に関する研究
- 四一 ヴイタミンB₁に関する研究

八〇

技師	農學博士	下瀬	林太
技師	農學博士	青山	伊佐
研究員	農學博士	鈴木	本鶴
研究員	農學博士	鈴木	吉之助
研究員	農學博士	小幡	彌太郎
研究員	農學博士	大堀	俊雄
研究員	農學博士	小宮	清次郎
技師	農學博士	濱野	貞行
技師	農學博士	佐野	佳一
技師	農學博士	野橋	明一
技師	農學博士	岩本	喜一等
研究員	農學博士	西田	恒美
研究員	農學博士	東田	壽人
研究員	農學博士	井上	兼雄
研究員	農學博士	丹下	ウメ
研究員	農學博士	大塚	静江
研究員	農學博士	松岡	彰登
研究員	農學博士	市場	彰美
研究員	農學博士	道場	彰美
研究員	農學博士	江本	榮代

- 四二 ヴイタミンCに関する研究
- 四三 ヴイタミンB₁並にヴイタミンDの定量に関する研究
- 四四 ホルモン類に関する研究
- 四五 ホルモン類の合成に関する研究
- 四六 魚類心臟ホルモンに就て
- 四七 造血成分及ヴイタミンLに就て
- 四八 ペントサンの利用に関する研究
- 四九 臺灣産植物の化學成分
- 五〇 動物癌腫に関する研究
- 五一 緑茶の成分に就て
- 五二 緑茶香氣の成分
- 五三 蛋白質分解物の營養試験
- 五四 海産魚類の利用研究

八一

研究員	農學博士	舟橋	三男
研究員	農學博士	丸山	喜久
研究員	農學博士	山崎	正孝
研究員	農學博士	櫻井	芳人
研究員	農學博士	岩田	元兄
研究員	農學博士	小川	洋
研究員	農學博士	高田	中捷
研究員	農學博士	高橋	堅夫
研究員	農學博士	中野	和郎
研究員	農學博士	犬飼	三文
研究員	農學博士	鶴上	文三郎
研究員	農學博士	藤田	貞治
研究員	農學博士	藤田	貞治
研究員	農學博士	山本	亮
研究員	農學博士	中山	和一郎
研究員	農學博士	染川	英一
研究員	農學博士	辻村	みちよ
研究員	農學博士	武居	三吉
研究員	農學博士	鶴見	正夫
研究員	農學博士	徳山	總太郎

理化學研究所案内

- 四五 海草の栄養研究
- 四六 米胚芽の成分に就て
- 四七 小麦胚芽の成分研究
- 四八 チアスターゼの研究
- 四九 塗料の研究
- 五〇 驅蟲劑に関する研究
- 五一 樟腦に関する研究
- 五二 有機物の微量分析法

研究者	マズアイツ	徳山 總太郎
研究者	理學士 金 良 瑕	
研究者	農學士 市場 彰 芳	
研究者	農學博士 皆 川 豊 作	
嘱託	農學士 飯 邊 俊 昌	
嘱託	農學士 林 泉 慶	
農學士	中 澤 清	
農學博士	佐 橋 佳 一	
農學士	武 内 邦 大	
農學士	伊 本 鶴 造	
農學士	島 本 鶴 造	
農學士	理 學 士 森 田 静 子	
農學士	酒 田 静 子	
農學士	和 田 静 子	

七 昭和十五年年度 收入 支出 豫算

科 目	豫 算 額	前年度ニ比シ増減△印減	備 考
諸利息及配當金	六九五、〇〇〇・〇〇	△ 六四、八七〇・〇〇	
基金 收 益	四二、五〇〇・〇〇	△ 四四、二六〇・〇〇	
有價證券收益	五八七、五〇〇・〇〇	△ 八四、〇六〇・〇〇	
預 金 利 息	六五、〇〇〇・〇〇	△ 六三、四五〇・〇〇	
其ノ他ノ收入	一、五〇七、四三〇・〇〇	△ 四三四、七〇〇・〇〇	
特殊研究費寄附	五六、〇〇〇・〇〇	△ 二五、二四〇・〇〇	
特許權實施報酬等	一、四二五、八三〇・〇〇	△ 四六〇、五七六・〇〇	
貸地・貸家料	六〇〇・〇〇	△ 六三六・〇〇	
雑 收 入	二五、〇〇〇・〇〇	△ 〇	
合 計	二、二〇二、四三〇・〇〇	△ 三六九、八三〇・〇〇	

此ノ内金百四十二萬五千八百三十圓也ハ特許權實施許諾報酬金ナリ構内土地建物賃賃料

支出 之 部

科 目	豫 算 額	前年度ニ比シ増減△印減	備 考
事務 費	一一〇、〇〇〇・〇〇	△ 一〇、二〇〇・〇〇	
俸 給 及 諸 給	四〇、〇〇〇・〇〇	△ 一、五〇〇・〇〇	

事務ニ従事スル職員及雇傭人ニ對スル分

業	七〇、〇〇〇〇	八、七〇〇〇〇	
雜品及消耗品費	四、三〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	案内其他印刷費
印刷費	一、四〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	
通信・運搬費	一、六〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	
旅費	一〇〇〇〇		
會費	二、二〇〇〇〇		
接待費	三三〇〇〇		
賄費	一六、三〇〇〇	一、三〇〇〇〇	研究及事務ニ從事スル職員並ニ 雇傭人頭費
租稅	一六、八五〇〇	四、二五〇〇〇	地租其ノ他
火災保險料	二、二五〇〇	八二〇〇〇	木造建物及什器研究室內機械圖 書什器ニ對スル保險料
修繕費	一八、六七〇〇	一七〇〇〇	
雜費	六、〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	
研究費	一、九七二、四三〇〇	二八九、六三〇〇	
俸給及諸給費	一、二二八、〇〇〇〇	二七八、〇〇〇〇	研究又ハ其ノ介助ヲナス職員ニ 對スル分
事業費	八四四、四三〇〇	一一、六三〇〇〇	
雜品及消耗品費	三〇〇、〇〇〇〇		
電氣費	四五、〇〇〇〇	三、七五〇〇〇	電力電燈電話 蒸汽及煖房用石炭費
燃料費	一三、七五〇〇		
瓦斯水道費	二〇、〇〇〇〇		
印刷費	二一、五〇〇〇	一、五〇〇〇〇	研究報告書刊行費

通信・運搬費	六、五〇〇〇	五〇〇〇〇	
會議費	八、七五〇〇	二、二五〇〇〇	研究員會及報告會等
特許費	五六、三八〇〇	一六、三八〇〇	内外國特許料及出願費
器具機械費	二九一、二五〇〇	一一、七五〇〇	
圖書製本費	四五、〇〇〇〇		
雜費	六、三〇〇〇		
建築費	三〇、〇〇〇〇		
豫備費	一一〇、〇〇〇〇	七〇、〇〇〇〇	
合計	二、二〇二、四三〇〇	三六九、八三〇〇	

八 第貳拾參回(昭和十四年度)決算報告

貸借對照表

(昭和十五年三月三十一日)

資產	負債
一、銀行預金	一、資
五九、三九三、六二一	金
一、郵便振替貯金	一、預
三二七、六六六	リ
	金
	八、七四四、六二一、〇三
	一六、五〇〇、〇〇

第貳拾參回決算報告

一、現	一〇、〇〇〇・〇〇	一、固定資產減價引當	四、〇八一、一〇六・七七
一、有價證券	九、七〇一、〇七一・九八	一、別口引當金	四一、八五六・〇〇
一、地所	五八六、九四一・四九	一、假受金	一八〇、八一五・八九
一、建物	三、六四六、二九九・五四	一、諸準備金	六六〇、二二二・〇三
一、設備	六、一八五、九一五・五七	一、支拂手形	八、四一二、七六四・九二
一、器具機械	四、一五二、七八一・〇九	一、當期剩餘金	一、二八四、三九四・〇八
什器	三二〇、〇一二・三一		
圖書	六四九、九三〇・〇五		
電氣設備	四三六、九一二・〇八		
瓦斯水道設備	二九五、二〇四・六四		
暖房設備	二三五、二四六・八二		
構內設備	九五、八二八・五八		
一、貯藏品	五二、五三九・〇六		
一、假拂金	五四四、四六四・九四		
一、未收入賣掛金	四〇五、三一二・八五		
一、製作品及材料	二、一五七、二三六・八九		
一、受取手形	七二、七七七・一二		
合計	二三、四二二、二七〇・七二	合計	二三、四二二、二七〇・七二

事業勘定書

(自昭和十四年四月一日起至昭和十五年三月三十一日)

一、利息及配當金	七九三、四七三・〇三	一、事務費	一〇八、七二五・七二
一、貸地・貸家料	六〇〇・〇〇	一、俸給及諸給	四一、六五五・四九
一、研究費收入	二六四、三六〇・二七	一、業務費	六七、〇七〇・二三
一、特許發明實施	一、七九二、六五五・九〇	一、研究費	二、三一、四七九・九一
一、許諾報酬	七三九、七二五・〇〇	一、俸給及諸給	一、一六八、三五七・八八
一、有價證券買賣	六一、二七〇・三八	一、事業費	一、一四三、一二二・〇三
一、雜收	三、六五二、〇八四・五八	一、當年度剩餘金	一、二八四、三九四・〇八
一、作業收益繰入	五二、五一五・一三	合計	三、七〇四、五九九・七一
合計	三、七〇四、五九九・七一	合計	三、七〇四、五九九・七一

剩餘金處分

一金壹百貳拾八萬四千參百九拾四圓八錢也

當年度剩餘金

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

一金壹百貳拾五萬五千參百七拾八圓九拾七錢也

資金ニ繰入レ

第貳拾參回決算報告

八七

一金貳萬九千拾五圓拾壹錢也

諸準備金ニ繰入レ

以上

参考の爲め左に創立以來の事業費の收支決算額を略記する、

年 度	收 入	支 出	年 度	收 入	支 出
大正 六年	五、三六四・四	三、七五八・九	昭和 四年	八七、四九六・九	七〇、九七一・〇
七年	一三、二五四・〇	四、三五〇・一	五年	五九、八六六・二	六七、四三三・五
八年	二〇、六八〇・九	一〇、九〇九・七	六年	六五、〇七三・六	六四、九三三・二
九年	二七、八三八・〇	一六、四四三・六	七年	六九、〇〇一・八	六四、二四四・七
十年	三〇、九三〇・五	二四、九四〇・〇	八年	八四、八九二・六	八八、五七〇・五
十一年	二七、一三三・五	三九、四四三・〇	九年	八九、七〇一・四	八三、九〇〇・九
十二年	九四、八七五・七	九〇、五〇七・三	十年	九七、三五五・三	九五、一六四・七
十三年	八四、九四五・三	八五、六九一・六	十一年	一一、五〇、五九・六	一一、四〇、三〇・五
十四年	九七、三三三・四	九六、五八一・〇	十二年	二、三七一、三六・七	一、五〇、五七・四
十五年	一、一八〇、六〇・九	一、〇四五、六五・六	十三年	三、〇七四、〇八・六	一、八九九、三四・八
昭和 二年	六五、五四一・三	六二、三七一・九	十四年	三、七〇四、五九・七	二、四三〇、二五・六
三年	八五、一六四・五	六九、八三九・九			

九 特 許 權 其 他

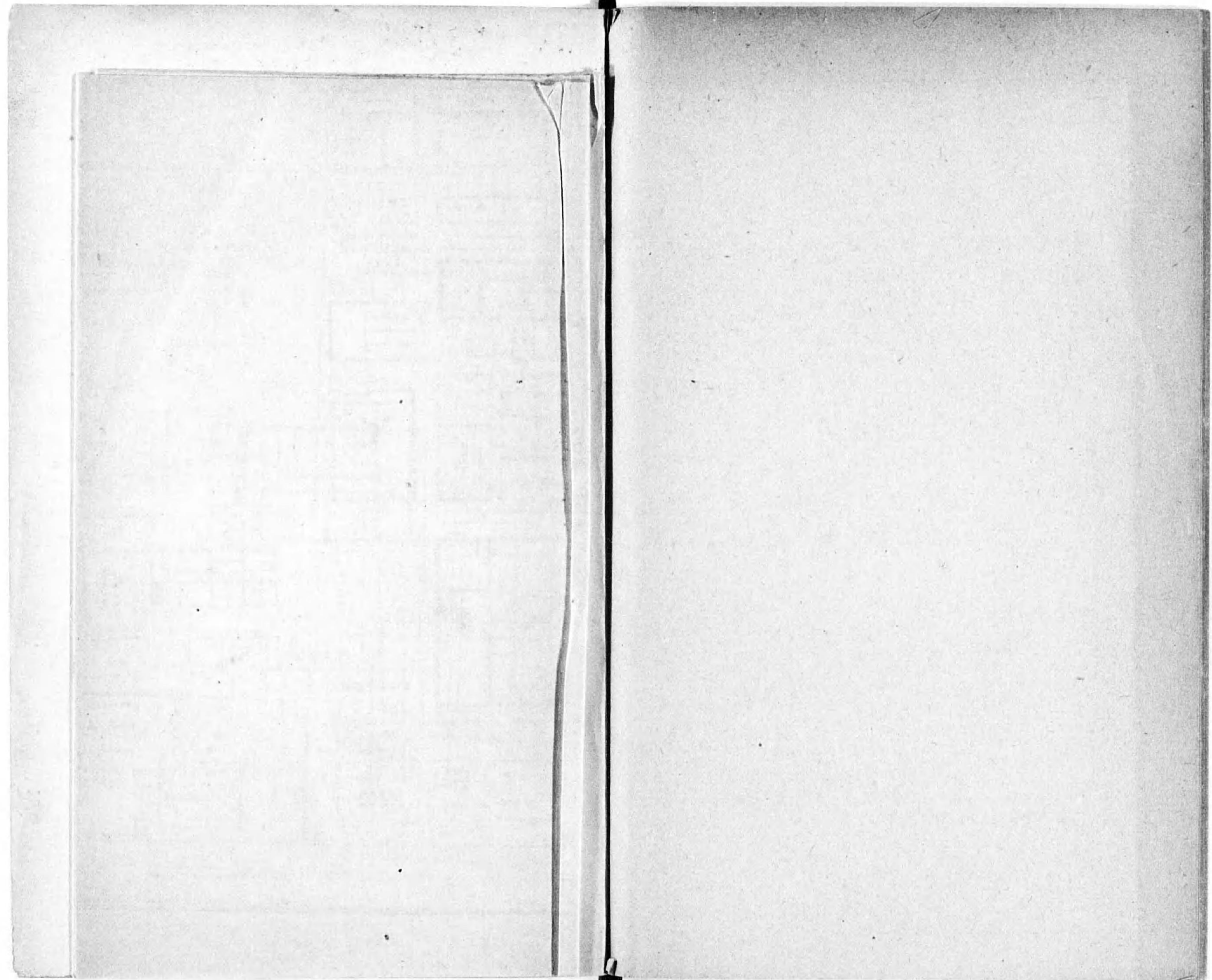
當所の所有してゐる内外國の特許權は、別冊に記載せる如く昭和十五年六月三十日迄に内國六〇〇件、滿洲國三九件、其他の外國一五〇件、實用新案特許一七二件、内國商標八四件、滿洲國商標一九件、登録意匠一件であつて、其内已に實施せられて居るのも可成りあるが、多くは未だ實施されずにある。適當の條件では等の特許が社會に大に利用せられんことを望むものである。

役員名簿 (昭和十五年七月一日現在)

總裁	伏見宮博恭王殿下	理事	商工次官 岸 信介
理事	原 邦造	同	男 爵 森村市左衛門
同	本多光太郎	同	文部次官 赤間 信義
同	東大總長 平 賀 讓	同	農學博士 鈴木梅太郎
同	工學博士 大橋新太郎	監事	男 爵 岩崎小彌太
同	子爵 大河内正敏	同	男 爵 三井 高公
同	理學博士 片山 正夫	評議員	男 爵 岩崎小彌太
同	理學博士 内藤 久寬	同	市 來 乙彦
同	理學博士 長岡半太郎	同	原 邦造
同	醫學博士 長 與 又郎	同	濱口儀兵衛
同	醫學博士 牧 田 環	同	濱口吉右衛門
同	工學博士 青木 菊雄	同	石井 光雄
同	鹽原 又策	同	日本勸業銀行總裁 大谷 登
同		同	日本郵船會社長

評議員	日本銀行總裁 結城豐太郎	評議員	田中平八
同	日本興業銀行總裁 寶來市松	同	第一銀行頭取 明石照男
同	理學博士 堀越角次郎	同	內藤 久寬
同	東大總長 本多光太郎	同	中村房次郎
同	工學博士 平 賀 讓	同	理學博士 長岡半太郎
同	東大工學部長 丹羽 重光	同	醫學博士 長 與 又郎
同	東大工學部長 寺澤 寬一	同	醫學博士 植村澄三郎
同	東大工學部長 大橋新太郎	同	內田 信也
同	子爵 大河内正敏	同	久原房之助
同	川崎八右衛門	同	山下龜三郎
同	勝田銀次郎	同	侯爵 前田利爲
同	貝島合名會社	同	松本健次郎
同	理學博士 片山 正夫	同	松方幸次郎
同	橫濱正金銀行頭取 大久保利賢	同	工學博士 牧 田 環
同	田中榮八郎	同	

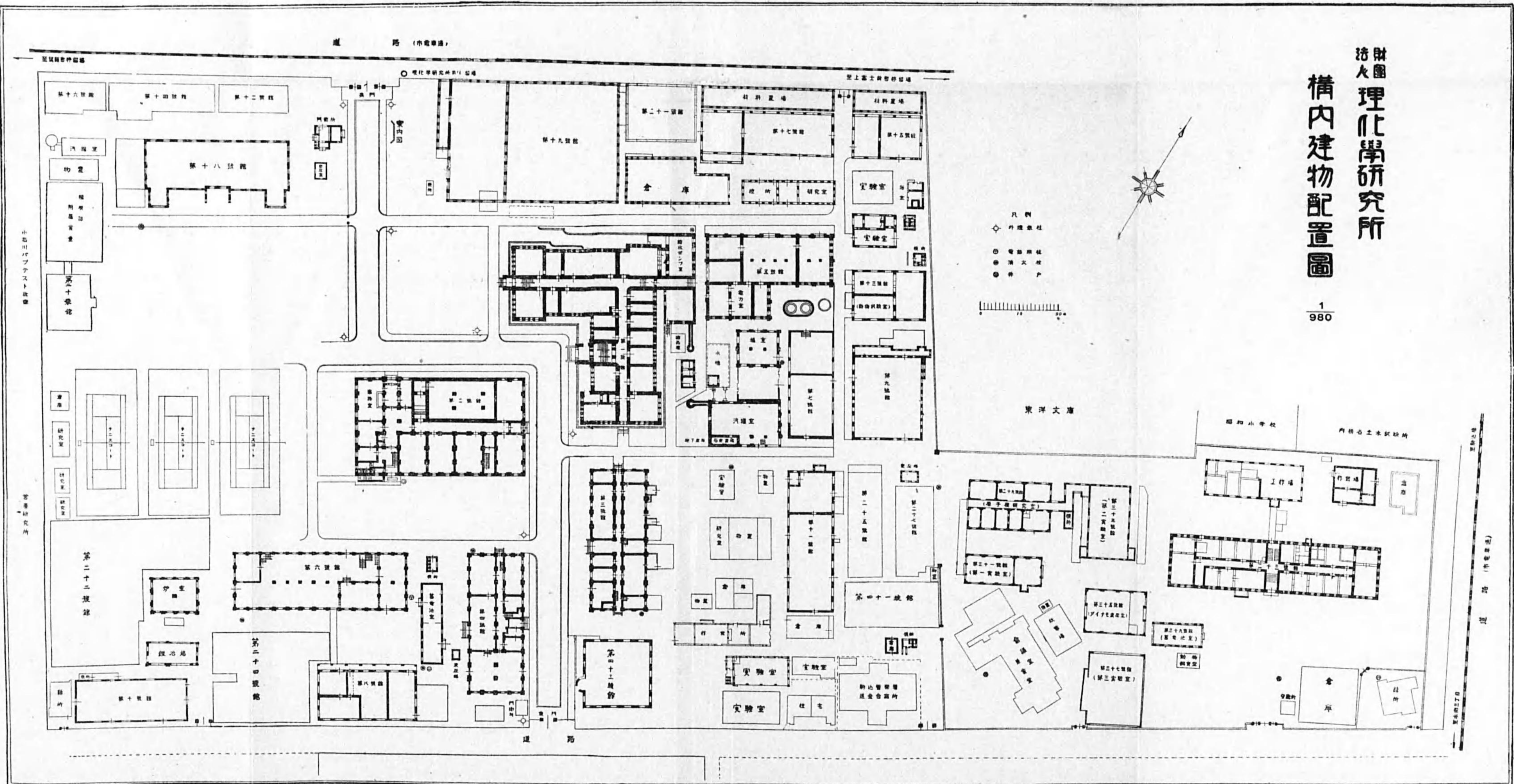
附錄 役員名簿



5
6
7
8
9
20
1
2
3
4
5
6
7
8
9
3

財團法人 理化學研究所
構内建物配置圖

1/980



北田川下流

理化学研究所

(北田川) 河川

北田川

289

昭和十五年七月二十日印刷
昭和十五年六月廿五日發行

【非賣品】

財團法 理化學研究所

電話大塚 (35)
自三三三
自一一一
自七七四
至七七四
至〇〇七
至七五九
至七五九

代表者 大河内正敏

東京市本郷區駒込上富士前町三番地

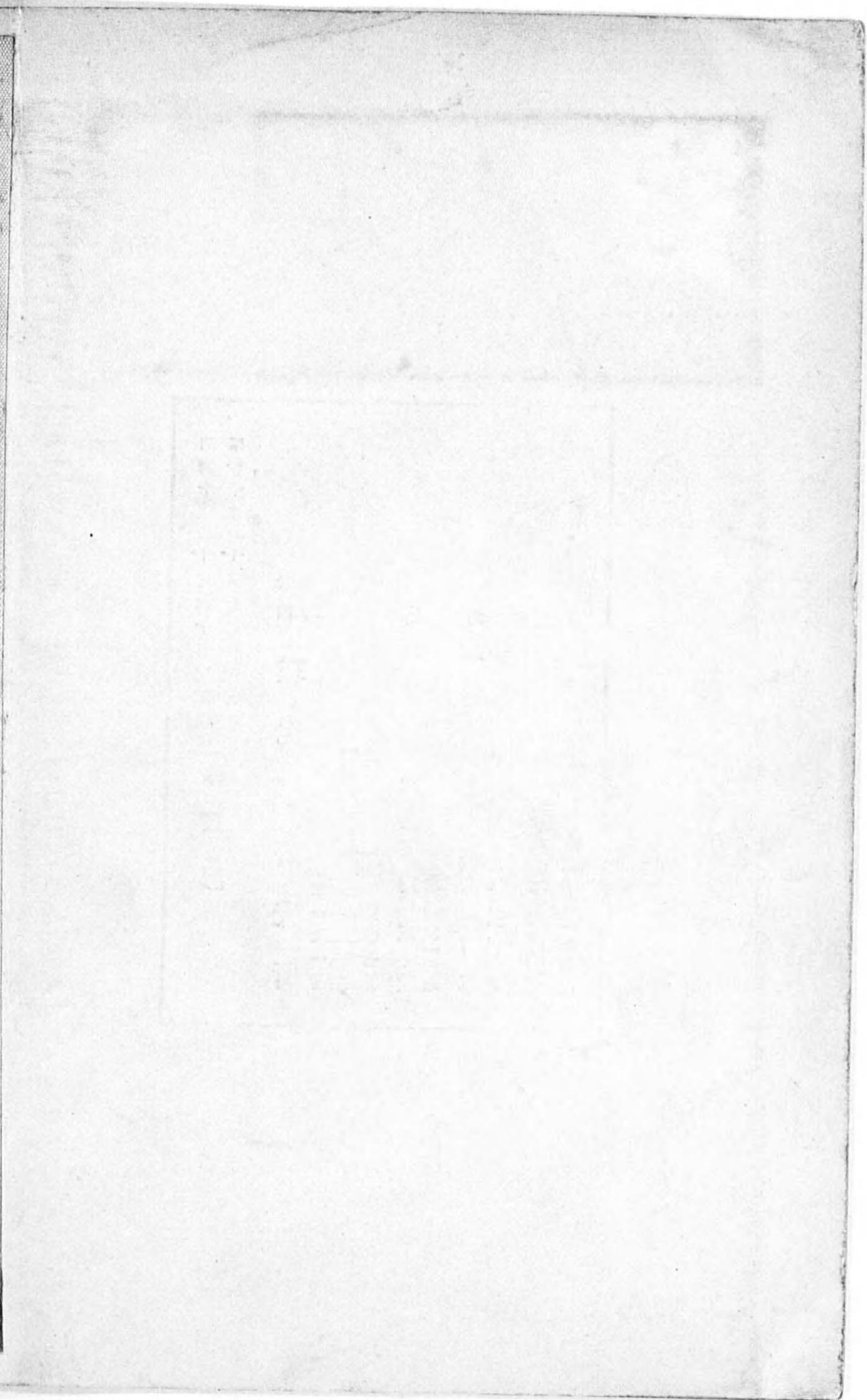
印刷者 安藤孝

東京市日本橋區兜町二丁目一七番地

印刷所 株式會社科學主義工業社印刷部

東京市日本橋區兜町二丁目一七番地

289
17



終

